

開催日 平成24年9月27日

会場 東海清風園会議室

参加人数 15人

御前崎災害支援ネットワーク



質問 福島の被災地での仮設住宅の入居は、地域ごとでなく、抽選で決められているため、隣近所との関わりを持たず、閉じこもっている高齢者も多いと聞く。仮設住宅の問題を取りまとめてマニュアル化することはできないか。

回答 仮設住宅は、地区ごとに作らなければいけない。今までどおり近所に知ってる人がいると、ある程度の不安は解消される。同じ地区の人が全て1箇所へ行くことは難しいが、何らかの対策をしていきたい。

質問 市役所の職員が被災地に行って被害状況を見ていないような気がする。市役所の職員も現地へ行って状況を把握すべきではないか。

回答 市職員の被災地への派遣は、今でも実施している。なるべく多くの職員が現地に行って生の声を聞いてくるのが大事だと思うので、引き続き実施したい。

質問 国道150号沿いは津波に対して非常に危険であると思う。津波避難タワーあるいは、荒廃農地を利用した命山の建設をお願いしたい。

回答 町内会で命山を建設した

いという話があれば、市としては前向きに考えたい。農地へ土を積むことは県の許可を得ることが難しい。今ある山を貸してくれるという人がいれば、そこを避難所として生かすことができるので、非常にありがたい。

質問 津波対策として、自分が所有する高台の農地へ引越したいと言っても、なかなか許可が出ない。かなり手間と時間がかかる仕組みになっている。市や県は、規制を緩和する考えがあるのか。

回答 農地法の関係上、国や県は、許可を出さない。また、補助金を使って整備した農地には、規制がかかっており、許可が難しい。自分の所有する土地の有無に関わらず、高台に移転できるのであれば、市としては、県と相談する中で、これを支援をしていきたい。

質問 大山不動尊や東町の山を池新田地区の避難地として指定しているが、震度7の地震が来た時に崩れ落ちる危険性はないのか。

回答 津波避難地を池新田地区で整備してくれたことは、ありがたいことだ。しかし、実際に大きな地震が来た時、絶対に大

丈夫という確信はない。池新田地区で一番安全なのは市立病院の周辺だろう。市民一人一人が、自分の居場所を考えて、今地震が来たらどこへ逃げれば良いか常に頭に入れておかなければいけない問題であると思う。

質問 災害時における救援物資の保管や分配の基準は、どの程度明確化されているのか。

回答 救援物資は、防災倉庫などを増設していく中で支度している。実際の震災が起きた場合、道路は使えるのか、ヘリコプターが必要なのか、港から運ぶのかなど、様々な問題があると思う。飲料水の問題も大きい。町内会の協力をいただければ井戸水の調査もしていきたいと考えている。

質問 自治会などで防災訓練を実施する場合、実際にどのような訓練を行っているのか、市役所の職員や避難所関係の担当者に、立ち会ってほしい。

回答 防災訓練では、各地区の方面隊に職員を派遣しているの、ある程度はカバーできていると思う。市の防災力を高めるためにも、災害支援ネットワークの皆さんの持っているノウハウを貸していただきたい。

